

## 記者発表資料

平成29年7月7日 3時10分発表  
国土交通省 緑川ダム管理所

## 緑川ダムでは防災操作を開始しました

■緑川ダムでは、平成29年7月7日3時00分から川の増水によるダム下流への影響を緩和するため、ダムに水を貯めて、流れ込む水量より少ない量を流す防災操作（洪水貯留）※1を開始しました。

- 梅雨前線の影響により、7日3時10分現在の緑川ダム上流域の平均累加雨量は、約203mmです。（7月5日11時～7月7日3時）
- 7日3時00分頃には、流入量が毎秒500立方メートルに達しましたので、川の増水によるダム下流への影響を緩和するため、ダムに流れ込む水を貯めて流入量より少ない量を下流へ流す防災操作（洪水貯留）を開始しました。
- 今後も川やダム、気象情報に十分注意して下さい。

※1防災操作（洪水貯留）とは：ダムに流れ込んでくる水量の一部を貯水池内に貯め、ダムの下流に流す水の量を少なくすることです。緑川ダムでは、流入量が毎秒500立方メートルに達した時に開始します。

例えばダムに流れ込む水量が毎秒2,800立方メートルの場合、ダムの下流へは2,000立方メートル流して、残りの毎秒800立方メートルを貯水池内に貯め込む操作になります。

<問合せ先>

国土交通省 緑川ダム管理所

TEL：0964-48-0216

専門官 岩崎 靖生